

## あけましておめでとうございます

今年は亡き父親の七回忌の法要を三月に催す大事な年です。亡くなる年の一月の原木市まで参加していた事を今でも覚えています。凄い気力があったのだなと思っています。あれから6年の歳月が過ぎ色々な事が有りました。私にとっては辛い事も有りましたが、亡き父親から聞いている事から比べると苦勞ではないと思っています。多少精神的にも肉体的にも辛いことが有っても当たり前と思うようにしています。

と言うのは私が生れて十歳頃迄は製材すると同時にオガを吸い込んで入れるサイロと言う設備が無かった為に、まず朝一番の仕事は製材機械の下のオガを麻袋に入れる事でした。そして当てにしている職人さんが来ない時も度々あって、当時アンコさんと言っていましたが、職人さんを雇いに行くのです。そして工場が回ると、大変重たい仕事の連続でした。昔の服部製材所は製材機械（通称台車）とテーブル機械が少し離れている為に、長さ2.1メートル直径28センチのホオ原木を製材するとき、二つに割るのは台車でしますが、歩留まりを重視する為に半分のホオ原木を肩に担いでテーブルまで運ぶのです。それは凄く重たかったと思います。台車の鋸の厚みは約3ミリです。テーブルの鋸の厚みは約2ミリです。1ミリの厚みで歩留まりが大きく違うのです。職人さんが半分の原木をテーブルで製材するのは本当に名人芸でした。ホオで製材していた商品で当時一番多く出た商品は、着物の染めに使うハリ木と言われる商品です。その商品は厚み18ミリで巾30ミリ長さ450ミリ位のサイズだったと思います。サイズについての覚えは少し間違っているかも知れませんが、細かい物を製材するのだから鋸は薄いほうが良いのです。しかし現在の我々ではこの方法では製材は出来ないと思います。技術及び体力が当時より良い生活をしているにも拘わらず今の私では出来ません。

そして夕方になると原木の買い付けに行くのです。確かに昔と比べると原木の全体の品質は今より良かったのですが、四十年以上前の当時服部は中間材（太い原木）より下の下級材（細い原木）を主に製材していた為に、筏に乗って原木を見るにしても原木が沈むのです。沈むか沈まないかの瞬間を見計らって原木の検品をしていたのです。こういう当時の材木屋にしては本当に地味な商いが後の服部を築いたと私は聞いています。



父は他の材木屋が太い原木を製材しているのを見て少しずつ商いの内容を変更してきたと言っていました。しかし服部の商いの根幹部分はこういう見えな技術が、私の血液の中で引き継がれて来ていると思います。左記の写真は約10年前アガチス原木を買い付けに行った時の写真です。（秋口10月初頭の夕方です。）

この時忙しく工場で作事をしていたのですが、突然父から電話が鳴り、直ぐ平林の現場に来なさいと命令され渋々行った思い出が有ります。

父の言っていた仕入れは誰もいない時にじっくり木を眺めそして会話をして買うものだから人の少ない夕方するものだという哲学を亡くなるまで一貫して

通していました。上記写真(亡き父親の横の原木)は長さ8メートル直径1メートル40センチのインドネシア産（ハルマヘラ島産）アガチス原木です。

原木を製材して製品にして色々なジャンルのお客様に販売するのが弊社の方針ですが、一本の原木を数えられない位多くのお客様に販売することこそ服部の商売の源です。数が多ければ多いほど良い。製材品を仕訳して販売する仕事こそ我々材木屋の仕事だと思えます。

日本の森林も以上の様な考えで使う事こそ意味の有ることなのです。

## 小冊子等のご案内

私は服部商店に 25 歳で入社し 25 年間勤めて参りましたが、四～五年前くらいから凄く疑問を持っていました。その疑問とは木材資源は人間の生活する環境に凄く素晴らしい良い資材にかかわらず、何故か消費者様に愛されていないのではないかと言う疑問です。

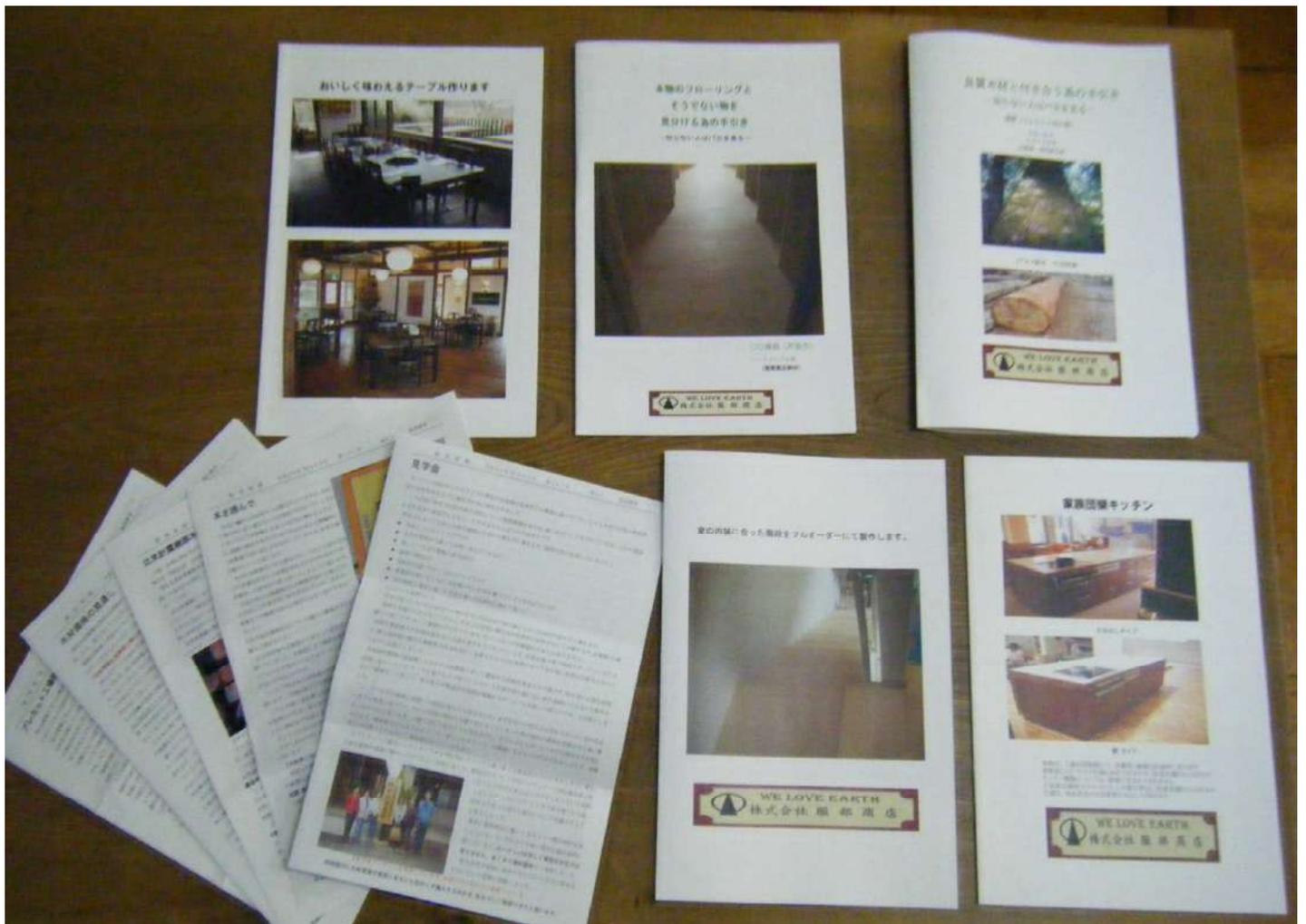
そこで其の疑問を解決する為になにが一番大切なのかを考えるようになりました。そして考えたのは木材のあらゆる情報を情報公開してはどうかと言う取り組みです。

勉強会（原木の製材を見て頂きました）と言う試みも三回催しました。木材に触れていなかった方にも触れて頂き、自分では良かったと思っています。

又毎月の木材の情報公開と、お客様から言われた疑問に答え率直に回答しようと試みた物が服部新聞と言う新聞です。

この新聞は平成 18 年 4 月に創刊しもう 4 年間毎月ご送付して来ました。その結果色んな人とめぐり逢いが出来ました。凄く良かったと思っています。

ところでお客様から木材の事は一般的に解りにくいから何とか解りやすくする方法がないと言われて製作したのが小冊子です。角方面からお問い合わせが有りもう既に手元に有る方もいらっしゃると思いますが、必要な方は別紙アンケートに必要な物に○をして F A X にてお返事頂けるようお願いいたします。



## 正しい表示でも本当の物性の違いは有ります

最近プレカット工場に行くとき、ホワイトウッドの集成管柱をスプルース表示してあります。確かにホワイトウッドは英語名を Norway spruce か European spruce と呼び間違いは有りませんが日本国内でスプルースと言われて流通している材はシトカ・スプルースです。シトカ・スプルースのシトカを付けずスプルースと広く流通し建築の建具及び内部造作材に多く使われています。強度も有るのがシトカ・スプルースです。

このシトカ・スプルースの有名な話は余り知られていませんが、昔世界最大の飛行機はシトカ・スプルースを使っていました。ハワードヒューズと言う方が全財産をかけて製作しました。名前はヒューズH-4飛行艇(長さ67メートル・巾98メートル、八発エンジン)です。この飛行艇は節の無い良質のシトカ・スプルースを使っていますが、スプルースの特徴を上手く利用したとあって良いと思います。と言うのは、シトカ・スプルースの節は比較的大きいです。そしてその節は少し重たい傾向が有りますが、節のない良質材は、物比重のわりに強度が強いのです。それを上手く利用して作ったのです。その飛行艇はオレゴン州のポートランドのエバーグリーン社の航空博物館に今も展示されています。又ライト兄弟が人類初の動力飛行機もシトカ・スプルースが使われました。

ホワイトウッドをスプルース表示して、近年日本にて集成材などの建築用材として広く使われていますが、特徴は日本のエゾマツに似ており色は白く、柔らかく加工しやすい木材ですが、強度と申しましょうか、粘りはシトカ・スプルースにはかないません。集成材として強度を上げて使用部位に注意が必要です。例えばシロアリの食害と腐りやすさはホワイトウッドの方が凄く注意が必要です。

ところで中国材の針葉樹に雲スギと言われて流通している材が有りますが、この樹種は雲南省(チベット)に有ります。昔スーパーの店頭でラップした雲スギのマナイタが販売されていましたが、今は販売されていません。その理由は以前の服部新聞に一度書きましたが、ご覧になっていない方もいるかと思いもう一度その理由を書きます。マナイタは水がしょっちゅうかかります。そしてその水が直ぐ雲スギのマナイタと馴染まずアカビが生えるのです。従って衛生上全く良く有りません。それでマナイタのマーケットは元のシトカ・スプルースに戻ったのです。

地球を北極から見ると同じ様な木は世界中に有ります。しかし同じ種族の仲間の木でも物性の違いは大変多く有るのです。ホワイトウッドは確かにヨーロッパスプルースとかドイツトウヒですので、スプルースと呼んでも可笑しくないのですが、今の日本の国内で一般的にスプルースと呼んでいる材質はアメリカ・カナダのシトカ・スプルースです。材質そのものの性質はホワイトウッドとか雲スギとは全然違うのです。

ホワイト・ウッドをスプルースと呼ぶのは、余りに紛らわしい表現だと思います。

少し専門的な話になりますがツーバイフォー工法で使われる S・P・F (スプルース・パイン・ファー) の中の S つまりスプルースはシトカ・スプルースでは有りません。ホワイト・スプルース若しくはエンゲルマン・スプルースです。この二つ以外にもスプルースは本当の話(アメリカでスプルースと呼ぶ物は約200種類有ると聞いています)はありますが、このS・P・Fにはシトカ・スプルースは入っていません。ツーバイフォー工法は節の大きな物は使えません。大きければ板が折れてしまいます。それでシトカ・スプルースはツーバイフォー工法には使えないのです。しかしツーバイフォー工法に使われるホワイト・スプルース及びエンゲルマン・スプルースの節は小さいです。そして色は白いのが特徴です。強度はシトカ・スプルースにはかないません。

ホワイトウッドは以上の説明を聞けばスプルースの親戚に該当するように思えますがホワイト及びエンゲルマン・スプルースの親戚になるだけでシトカ・スプルースの本当の親戚では有りません。

シトカ・スプルース以外では飛行船を作れる強度は存在しません。

建築に携わっている方たちにホワイトウッドは確かにスプルースですが、何時も内装等に使っているスプルースでは無い事だけでも頭の片隅に入れて頂きたいと思います。

**ホワイトウッドをスプルース表示しても良いが、皆様方が思っているスプルース(シトカスプルース)では無いことを覚えておいて下さい。**

# 服部商店が生協の新聞に取り上げて頂きました。

下の記事は大阪パルコープ住まいの研究会2008年11月12日の第59号に取り上げて頂いた記事です。

## ～木に関わる仕事をしている人のお話②～

### 一材木屋さん一

私たちの生活にはあまりなじみのない材木屋さんの話を聞きに、岸和田にある服部商店さんに行ってきました。海岸近くにはたくさんの材木屋さんがあり、海には広い貯木場。そこにはたくさんの原木が浮かんでいました。う～～～ん！！壮観！！

まずは、見学・・・たくさんの製材された板が高～く積み重ねられています。自然乾燥にこだわって、そのまま半年以上乾燥させるのだそうです。（商品になるのはいつのことやら・・・）色々な種類の大きな一枚板もたくさんありました。これは、良い材が枯渇している今では、国産でそろえるのは難しいのだそうです。外国からの材もたくさん積み重ねられています。このような輸入材は、近年、殺虫剤を使う必要がない加工木材の輸入が増え虫が付いてくることもあるそうです。

「端材コーナー」発見！誰でも買えるのだそうです。1枚でもOK、もちろん端材でなくても買えますって。

材木屋とは、木材の目利きをするのが本来の仕事だと服部さんは言います。北海道などの原木市場で原木を買い、木のくせや性質を見て木の使い方にあったものを、適材適所で無駄なく使えるように製材して供給しているのだそうです。



倉庫には製材がきれいに整理されて積み重ねてました。

（1本の木でも場所によって性質がちがいで使い道も違ってくる。それを見極めて供給する・・・う～～～ん“選材選所”か・・・）原木はひとつとして同じものがない。だから、原木を見る能力と製材できる能力を使い良い材を作るのです。材木屋は木のプロフェッショナルです。匂いを嗅げば何の木が分かります。どんな性質でどんな所に合うのかも。

しかし、木の性質や産地を無視した家作りが多い現在では、材木を扱っている者の多くが、本来の仕事をおぼえているのが現実だそうです。また、国産材を使うのが一番とも言っています。しかし、日本の森が荒れ、国産材だけではまかなえないのも現実なのだそうです。（日本中が木だらけに思うんだけどな・・・？）

材木を安く手に入れるには産直。だから、材木屋さんはいらんんじゃないかと思ってました。しかし、あらためて、森のことも木のことも知っている材木屋さんの役割に気づいた1日でした。



ひろーい！貯木場

### 一木材の昨日・今日・明日一

その昔、家を建てるには近くの山から伐り出した木を使っていました。今で言う「地産地消」が当然だったのです。

次第に都市への人口集中が進むと同時に、銘木産地と言われる地域も確立してくると、長距離の輸送が行われるようになりました。

何と云っても第二次世界大戦後、戦災で焼き尽くされた都市の復興には、膨大な量の木材が使われ、それに続く経済の高度成長期には、人口の都市集中がさらに進み、経済的に豊かになった人々のために大量の住宅が建設され、木材需要はさらに加速しました。木は伐っただけ売れた時代、次を見込んでの植林も盛んに奨励されました。

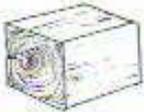
やがて国内の産地だけでは賄いきれない木材需要を、外国からの輸入で補うようになりました。工業製品の輸出増加に伴って、貿易の均衡を保つためにと農産・林産品の輸入を求められたこともあり、瞬く間に木材市場には輸入木材が増えました。急峻な山地の多い日本の産地では、機械化しても人手に頼る部分が多く、どうしてもコスト高になってしまうけれど、平地に巨木が立ち並ぶ北米等では大型機械の導入も容易で、長距離輸送を考慮しても安価な木材が提供されました。

住宅が大量に求められた時代。木材とともに人手も不足して、技術のある職人を育成する時間もなく、誰でも造れて工期も短い家造りの必要から、さまざまなプレハブ住宅や新建材と言われるものが誕生しました。工場加工には癖が少なく太い輸入木材が使いやすく、需要を伸ばしていったのです。同時に人々の家に対する好みも洋風になると、ほとんど針葉樹を使っていた家造りが、建具や床などの内装に広葉樹を多用するようになりました。植林で増やせない広葉樹の国内生産量は元々そう多くなく、輸入に頼らざるを得ません。

価格競争では勝てない国内産地では、きつい労働の割に収入の少ない山仕事に就く人が減り、山村は高齢化・過疎化が進んでいます。そして人の手が入らなくなった植林地は、間伐されないで風も通らず日も差さない為に、下草も灌木も生えない荒れた山になり、根の張り方が浅い針葉樹だけでは保水力も少なく、集中豪雨による地滑りの被害を拡大する原因のひとつにもなっています。中には独自の工夫と努力で山を守ると同時に、採算ベースに乗せている産地もあり、人工林＝自然破壊では決してないけれど、全体から見るとまだまだ少数派でしかないのが残念です。

いっぽう木材産出国、特に途上国と言われる国々では自然保護の気運も高まり、国内需要も増えて輸出規制が進んでいます。北米等では輸出国の都合が優先され、輸入国が品質や量を自由に選ぶことは難しい場合も多くなっています。国際市場に出回る良質な木材が減少する一方で需要が高まるとすれば、今まで安いから、使いやすいからと多用していた輸入木材を見直さなければならなくなってきます。この機会にもう一度国内の木材を見直し、林業再生の道を模索すべきではないでしょうか。

～無垢材・集製材・合板について～

	特徴	主に使用されている箇所
 <p>無垢材</p>	<p>製材されたままの材のみでできた加工されていない中まで1本の木材。 木は生きているので、呼吸をし、調湿作用で空気を快適にしてくれる。ただし、収縮し乾燥による割れや反りが生じる。これは、欠点とも言えるが、木が心地よい環境をつくりだしているともいえる。</p>	<p>木造軸組住宅の構造体、フローリング、建具</p>
 <p>集成材</p>	<p>木材の欠点を取り除いた小さい板を接着剤で張り合わせた加工木材。 反り、ねじれ、ひび割れなどが起こらない。 均質で強度のばらつきがない。 ただし、接着剤の耐久性、化学物質放散の問題はある。</p>	<p>木造軸組住宅の構造体、フローリング、建具、カウンター、階段板、てすり</p>
 <p>合板</p>	<p>木材を大根のかつらむきのように削って造られた薄い板（4mm以下）を、互いに繊維方向が直角になるように接着剤で貼り重ねた板状の加工材。 強度のある面材の建材という点では優れている。 材料は、熱帯材が主で、過剰採取されているという環境破壊、多量の接着剤使用による化学物質放散の問題がある。</p>	<p>木造軸組住宅の壁、床などを強くする箇所（構造用合板）に使用、フローリング、内装の下地材、建具</p>

無垢材がのび縮みし、ひび割れ、反ってしまうことが許せない？クレームになってしまう？  
私たちが望む家とは？  
心地よい家とは？

☆ **ムクの木は、無垢の木 椋の木？**  
——日本語はむずかしいぞ！！——

椋（ムク）の木とは、楡（にれ）科の高さ20m以上になる高木。上の方でいっぱい枝分れし、その様子はケヤキに似ている。葉っぱの表面はざらざらし、昔はこの葉っぱでべっこうなどを磨いた。実は秋に黒く熟し、椋鳥（むくどり）の好物（木の名前もこれが由来らしい）。

上記の記事は昨年10月22日に来社された女性5名の方が製作された新聞ですが、中身を拝見すると凄く勉強されているのが解ります。無垢の良さ、弱点等非常に一般の方も理解しやすく表現されています。我々木材業者は建築の場合直接お施主様から代金を頂いているケースは少ないです。その為に本当の事を伝えきれなくなっているのではないかと思います。しかし昔と同じスタイルの商いをしていたら、本当の環境問題の本質『無垢の木を大事に利用して長持ちする住まいを提供する事も環境問題解決の手段の一つです。』を社会において解決する事にならないと思います。

**情報公開こそ材木業者の生き残れる手段の一つだと、思います。**

# 本当の構造改革とは

昨年のNHKの大河ドラマは篤姫でした。私は一年を通じて全てを見ました。そして感じたものが一つだけあります。それは所謂既得権益の争いだと思います。戦後 60 年が経って先進国の中で真の政権交代が行われていない国は日本だけとなってしまっていると思います。自民党が正しいとか民主党が正しいとか言っているのではなく、替わることのメリット、デメリットを知らない日本人こそ構造改革をしなければならないのではと何時も思っています。今年は安全な食品問題が一年を通じて話題になりましたが、食品だけが人間の安全を脅かすものでは有りません。食料の自給率を上げるのに最も大事な事は、森林（もり）を豊かにすることを考えずには絶対成り立ちません。豊かな森林があってそこで豊富な水が貯められ、豊かな微生物が繁栄し、それを昆虫が食べ、それから人間達に恵みを与えるのが、食物連鎖のサイクルなのです。しかし日本の建築に携わる方の多くは、目の前のコストだけで物事を決めているようにしか見えないのが昨今の状況ではないでしょうか。工場生産は確かに目の前のコストを下げたでしょう。しかしそれによって人間の雇用が減りました。所謂フリーター、ニートと言う新しい不必要な物を生んだ事も事実ではないでしょうか。

少し前の不景気の時前川レポートと言う物を当時の日銀総裁が発表しましたが、それから 20 年位時間が経過しています。その前川レポートに掲載してある大事な事は内需主導型の経済にシフトしなければ日本は生き残れないと歌っています。確かに日本も不良債権問題等がそのレポート発表後勃発し、それどころではなかった事も解っていますが、全然その当時と変わっていない事こそ本当の構造改革がなされなかった結果ではないでしょうか。

ところで最近では世界的な不況が来るのではとかなり石油価格等も下がりましたが、ここ数年間化石燃料等の資源が世界中で取り合いになっているように思われていますが、これから先起こる問題は水の取り合いになるのです。世界中の水資源の内人間が使えるのは地球全体の 1% くらいだと言われています。世界中で日本ほど水に恵まれている国はないのです。しかしその水の扱い方が下手なことが解ったのが今年のゲリラ豪雨でなかったかと思います。私は日本人が上手く水をコントロール出来れば凄く幸せになるのではと思います。水を上手くコントロールする為に必要な行動の最初の一步は構造材にスギ・ヒノキをまず使う。とにかく使う事です。それも石油等の資源に助けられない無垢の形で。集成材となると石油資源が必要になるので集成材を多く使うと今伐採期に来ている森林を多く使えない事になってしまいます。取りあえず使う事が日本人に科せられた命題だと思っています。

そしてその後スギ・ヒノキを植える前の様な天然の森林に近い植林（生態系を考えた植林つまり広葉樹と針葉樹が互いに助け合う森林を構築する）を行うのが一番良い政策だと思います。

私は以上の事を実施しても日本の財政に対して問題は生じないと考えております。それは森林が凄く豊かになってくれたなら、無駄なダムも要らないし、ダムがなければ魚も上流まで遡上し、川の水も豊かになる。そうすれば農業も余計な肥料、農薬も減ります。そして海も豊かになり沿岸漁業が豊かになります。全ての日本人がハッピーになるのです。

ところで日本人が一番幸せな時代は何時だったのかと建築士さんとの会合で話になった事が有りました。その時代は江戸幕府徳川綱吉の時代ではなからうか、その当時わが国は鎖国政策を取っていましたが全て自給自足でした。海外の資源に頼らずに国が回っていましたし当時の日本人は幸福だと思います。今のような振り込め詐欺とか、車のひき逃げ事件などは無かったと思います。

アメリカ依存からの脱却をしなければならない事は誰もかも解った昨年ではなかったのでしょうか。サブプライムショックからリーマンショック何も直接日本は関係ないのに凄く景気が悪くなったのは、先にも書いた前川レポートを二十年間も過かって少しも実践出来なかった日本人の構造に有ったと思っています。

劇的に変わる事が難しいのはNHKの大河ドラマを見ていても解ります。しかし変わらなければ日本人全体に幸せが来ない殺伐とした今の国内の状況だからこそ、勇気を持って我々国民一人一人が良い政治を行うように仕向けることが我々が子孫に付けを残さない仕事ではないでしょうか。

**国産材をとにかく使う事こそ脱外国依存を減らせる唯一の手段です。**

## 販売側の理屈と本当に必要な物は違う

分譲マンション・分譲住宅の新聞の折込みのチラシに食洗器標準装備、床暖房装備等の住宅設備器具が充実している事が他社との差別化であるかのような広告をよく目にしますが、それはあくまで売り手側の論理ではないでしょうか。購入するお施主様の本当の希望をかなえた住まいでしょうか。そう言う広告が他社との優位性・差別化になるのでしょうか。私ははなはだ疑問に思います。

5年ほど前に分譲マンションを購入した私の年上の友人に話を聞いたのですが、当初は食洗器も使い床暖房も使ったが、息子、娘が就職、結婚で家を出て行った現在は、床暖房はここ何年も使っていないし、食洗器も家族全員が集まるか、それとも子供連中が来てホームパーティを催す時等以外は全く使っていませんと言っていました。果たしてこう言う設備を標準仕様にするのが正しいようには私は思いません。むしろオプションにする方が対お施主様に対する正しいサービスだと思います。

住まいとは本当は買うものでなく建てる物ですが現実にはその所はあやふやになっています。しかし買うにしても哲学的に住まいとは建てる物だと言う本当の事に立ち戻れば、住宅設備機器は重要な物以外は本来オプションの方がよっぽどお施主様に満足をしてもらえるサービスだと思います。

ましてや地球温暖化とか資源の取り合いが先々続くと予測されている将来の事を考えると、余りに過剰な住宅設備は結局、資源の無駄使いに終わり自分達日本人の首を絞める結果になるようにしか思えないのです。

私が上記の思いをしたのは極最近、しかも全然違う二つの話を建築士さんから聞いてそして質問し色々調べそして妻・子供達の生活をじっくり見て自分でも納得するまで考えて思ったからです。

最初の話は建築士さんに教わった畳の話でした。誰でも京都・奈良の観光地のお寺にたまに出かけると思いますが、その時の畳のすわり心地が違うのに感じませんか。畳に座ったとき柔らかくしかも足の裏に感じる何かが違うのです。それが藁芯（わらしん）の畳の良さです。と教えて頂きました。しかし現在の住まいは殆どスタイル畳だと言われていました。（スタイル畳とは中に建材が入った工業製品です。）

次の話は床板の話です。私の家は無垢の床板ではないです。複合フローリング（ホワイトオーク）です。最近の住宅作りの時床下に24ミリの厚い合板を張り、そしてその上に複合フローリングを張る直張りが主流を占めています。そうした工法に移行した理由は大工の仕事手間を減らす事が出来きしかも構造上プラスになるし床鳴りのクレーム対策にも良いと言われて主流になっているのですが、こういう工法を取るとスタイル畳と同じ様に足裏に感じるフィーリングが凄く悪くなると教えて頂きました。フローリングを歩いているのにコンクリートを歩いている時と同じ感覚になってしまうのです。（10年ほど前の工法は根太を入れその上に複合フローリングとか無垢のフローリングを張っていました。）ネダ工法の方が足の裏に僅かの撓みを感じ素足で歩いても、靴下で歩いても、スリッパで歩いても程よいフィーリングを感じて良かったのです。

根太を使うことにより森林の育成にも大変貢献していたのです。スギ・ヒノキの主要構造材を作る時、それ以外の部材（ネダ用の材）も出来ます。ネダ等の付属部材を有効に使う事は一本の立ち木を有効利用できるのです。ネダレス工法では、原木から出る主要部材だけで出来てしまいます。付属部材は必要ないと言われます。ネダレス工法は環境問題に対して全く逆行する工法だと私は思います。

畳とフローリングは、どの住宅設備器具より一年中多用します。そして唯一年間を通じて人体に直接触れる住宅部材です。食洗器、床暖房設備、浴室暖房等の住宅設備は必要ないとは言いませんが、現実にはそれを標準装備するよりそれ以外にもっとお金を使うべきだと思います。

私は子供達が大きくなって家の改築が出来るようになったら、複合フローリングをネダ付きの無垢のフローリングと藁芯畳に変えようと思っています。そうすることが本当に家族の健康を守る一つの手段だと思います。

**本当に消費者から求められている住まいとは、住宅設備機器がフル装備ではなく、それはあくまでオプションであって人間の五感を適度に刺激する設計で、其れに基づく工法及び施工方法が取られる事が大事ではないか**と思います。

**住まいの差別化とは新しい住宅設備機器をふんだんに使うのではなく、家族の健康、心の安らぎを一年中味わえる住まいの設計こそ本当の差別化だ**と思います。

# 決して妥協はしていません

広葉樹原料及び針葉樹原料の品質低下はお客様の思っているよりはるかに進んでいます。具体的例を挙げたいと思います。下の写真がチーク原木です。



チーク特選原木



チーク超特選原木

左の写真は二年前に購入したチーク原木です。このロットは全体で15本位有りました。その中の一番良質材です。

中身はまずまずの出来でした。建築材とか木工用には十分使える品質でした。(建具に使用する時は少し注意が必要でした。)

上記、右の写真は一月十七日に服部商店勉強会にて製材する予定の超特選原木です。品質の違いは写真だけでも解ると思います。なおこの超特選原木の仕入れに関しては凄く恵まれたと思っており、仕入先に感謝しております。

両方のチーク原木は正規ルート材です。左の原木はアンバット材と言います。奥地に立っている原木を伐採するのですが、奥地にある為に直ぐに搬出出来ません。伐採し原木を運んでくれるのはゾウです。原木を伐採現場から雨が降って将来運べる所までロープを挿入する為の穴が原木の先に開いています。(左下の写真)



雨季を待って、乾いた川に水が流れ出しその水の力で奥の伐採現場から人の動きが取れるヤードに出されるのです。そしてアンバット材がヤードにて両木口をカットされ上記右のカットログに変身して世界中の木材業者が集まるオークションに出品され高い値段を出したバイヤーが買い付けに成功するのですが、ここにきてミャンマー産のチーク材も他の樹種と同じく品質低下が著しくヤードで木口をカットしても美しくなる原木が非常に少なくなっています。その為現地オークションはアンバット材が主流になっているのです。

ところで上記左の写真の原木を買い付けするにも凄く時間が掛かりました。何回も下見に行き、仕入先に今回私は自信が無いから見合せてとか言って、やっと三回目、時間にして大よそ9ヶ月もの時間を要しました事は覚えています。決して妥協しない仕入れを心がけていますが、何分原料が天然資源である為に、対お客様に優良材でも凄く良かったと言われたり、今回は少し材質が良くないと言われたりしますが、その所はご理解を賜れます様御願いいたしたいと思います。

又上記右記のカットログの優良材原木は凄く貴重品になっています。凄く仕入れ困難な材が、何故私が仕入れできたのは、私がお客様に御願している事の証拠でも有ります。**『お客様の必要な優良材は必要な時には中々手に入りません。何時優良材が有るのか解りません。従って優良材が入手出来たとき、ご案内申し上げますので、出来るだけ買っていただけるようお願いいたします。』**

**材木屋の宿命とは欲しい材質の優良材は欲しい時に入手出来ないのです。**

## ソーシャルネットワークシステム（SNS）に参加しませんか

ソーシャルネットワークシステムと言っても、理解して頂ける方は極僅かしかいないと思います。（ソーシャルネットワークシステムを以下は略して SNS と言います。

新聞紙上でインターネットの特徴である匿名性の行き過ぎで、犯罪が多発しるのを最近よく見かけます。

そしてこれからメールマガジンさえも法的規制を受けようとしています。

言わばインターネット経由で、個人情報への一方的な情報の押し付けに待ったを掛けようとしているのです。

しかしこの SNS と言うのは従来のインターネットのやり方とは全く違うのです。

この SNS はインターネット網を利用したコミュニティーの双方向通信ツールです。

例えば、『 会員の中でこの情報は、誰にでも見せても良いが、これ以上の事は利害関係が有り、特定の仲間しか見せられない。 』と言う事が出来るシステムです。

現在、服部商店の SNS サイトには約 30 名の参加者がいます。建築士の方からデザイナー、家具作りの方々と色々なジャンル参加者がいます。色々な書き込みがあります。その中で面白いやり取りをしております。

更に、安心できる環境の一つとして『 信頼できる知人を紹介し、又、別の言い方をすれば、紹介がないと入れないサイト 』という事です。

SNSでのやり取りを一つ紹介します。それはワンダーチャイドルさんとのやり取りです。

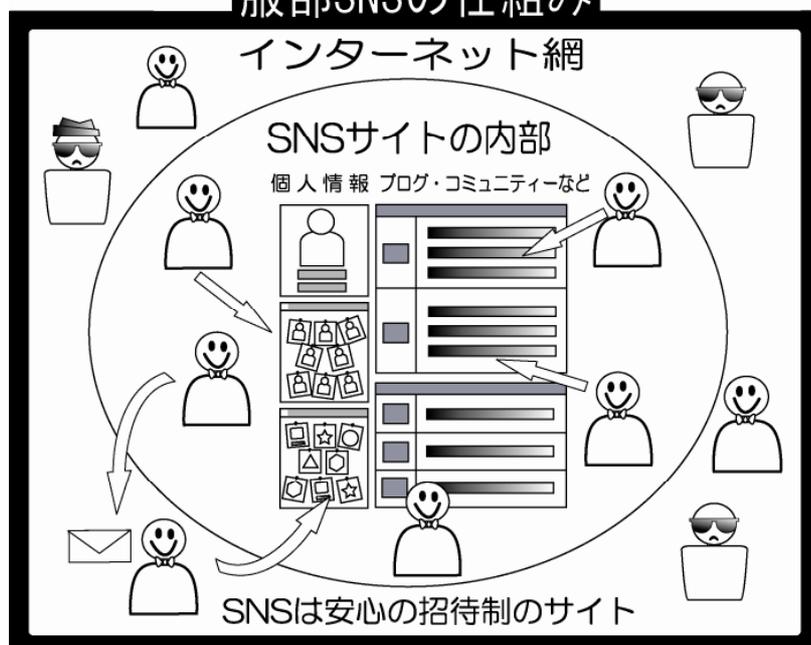
ワンダーチャイドルさんの書き込みで施設を作るのに立ち木が立っているのです。それを上手く利用する方法が無いのかなとの書き込みでした。私自身は身の回りの立ち木を利用した事は全く有りませんでした。私は木材のプロですが上記の身の回りの立ち木を利用は全くの未経験です。何かの役に立てればいいのではと思ってお返事をしました。そして付け加えたのは無償では出来ませんが、最小限の掛かる経費さえ見て頂ければさせていただきます。とお返事させていただきました。この仕事を受けたのはただ単に服部商店の為になるだけでなく、建築士、工務店、施設を利用する方たち全員が木の良さを体験できればこの取り組みは成功したと言えると思ったからです。

こういう取り組みは従来のインターネットでは出来ません。匿名性が余りに優先される従来の方式ですと無理です。特定の人や、信頼できる方のみに表示すると言うことはインターネットの性質上非常に難しく、又、出来たとしても困難を有する操作が必要で有り、なかなか思うようには行かなかったのが現実でした。

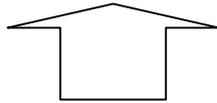
ところがこの SNS では、簡単な操作でインターネット上の隔離された安全な部屋に入り、例えば日記形式で現場の様子をお施主様だけ見たい場合、見られるが、一方利害関係者には見せたくない場合、簡単に制限を掛けられるのがこのシステムの特徴です。

その上、書いた日記に対する意見や問合せも頂ける、まさに双方向の通信手段となるのです。

### 服部SNSの仕組み



**FAX番号072-422-8577**



アンケート1、SNS（ソーシャルネットワークシステム）に対して興味がある。

はい

いいえ

アンケート2、1の質問ではいの方に入会しても良い

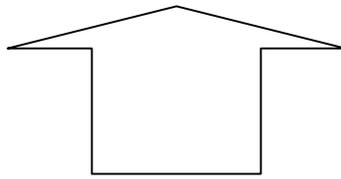
はい

いいえ

お名前	
連絡先ご住所	
お電話番号	
メールアドレス	

(株)服部商店  
服部雅章  
2009.1.1





**F A X 0 7 2 - 4 2 2 - 8 5 7 7**

## **勉強会開催の再お知らせ**

先月号のアンケートで勉強会開催のお知らせを致しました。3つの日程の中から一番希望が多かった2009年1月17日(土曜日)に第四服部商店勉強会を催す事になりました。時間は午後1時から約1時間程度の日程にて行いたいと思います。

勉強会の内容はミャンマー産チーク特選原木の製材を見ていただきます。

先月号にてご案内を差し上げ、ご出席のお返事を頂いている方も多数いらっしゃいますが、誠に申し訳ありませんが、もう一度お返事をいただけるよう御願致します。

ご担当者名	
御社名	
〒・ご住所	
電話番号・FAX 番号	

(株)服部商店

〒596-0011

大阪府岸和田市木材町16-1

服部雅章

2009. 1. 1